

令和 3 年 第 7 回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和 3 年 7 月 14 日（水）

2 招集場所 大河原町役場 第一会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

教育総務課長 佐藤勝弘、生涯学習課長 佐藤圭一、学校教育専門監 山家一博

学校教育係長 山岸香織

5 開 会 午後 2 時

6 令和 3 年第 6 回教育委員会定例会及び第 1 回臨時会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

舟山委員、丹羽委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告について

なし

（2）専決事務報告

報告第 3 号 専決処分の報告について

（令和 3 年度大河原町一般会計補正予算（第 6 号））

教育総務課長から説明する。

8 議 事

議案第 26 号 令和 4 年度使用教科用図書の採択調整案について

教育総務課長から説明する。

出席した舟山委員より説明。途中で教科書が変わるのも先生方も子供達も大変だということ
ことで前回決定のものでよいとなった。

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

9 その他

（1）教育長報告

1 「性より個性を」（村木厚子）

上下関係とは役割でしかない。管理職は、下のポジションの能力や知識をいかに引き出

すことが本来の仕事。失敗や事件を全否定しても事件はなくなる。なぜ、起きたか背景や原因をさぐり解決方法を考えること。人材を登用する際、女性でいい人材がいらないか考える。男女差はない。管理職のスタイルは自分なりのスタイルを見つける。情報を開示する。説明力をつける。個々人でなくチームで。多様な人とつながって欲しい。町の校長の3人が女性。小学校の6割が女性の先生。女性の活躍の場が増えてくる。

2 学力向上

(1) 教師論・授業論（齋藤喜博）

授業に対する価値を確立した人だと思うので読んで欲しい。教えることの重要性が書かれている。教師の宿命、授業の価値等書かれている。若い先生に紹介して欲しい。

(2) 町標準学力調査結果

中学校の頑張りがわかる。中学生は勉強すればもっと伸びる。学ぶ機会を与える。中学校に浸透してきている。これまでは、小学校は3年生になると全国値を超えていたが、今は高学年にならないと超えない。学力の二極が進んでいる。せめて、中学校の国語は全国値を超えて欲しい。今の5年生をどう盛り上げていくかが今後の課題である。

(3) 令和3年度全国学力・学習状況調査の解説

先生方に読んで欲しい。書く力の問題が多くなっている。論理的思考が求められている。平成19年度からの過去問と解説のCDを作成。学校で活用して欲しい。

(4) 算数科における主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善

～分数のつまずきを例に（笠井健一）

大河原小学校で笠井先生を呼んで研修をするので時間があれば、参加をお願いしたい。つまずきをどの様に具現化していくかが丁寧に書かれている。分かっている子が自分の論理で説明すると、分からない子は分からない。つまずいている子の論理で説明しないと分からない。できたところだけでなく、できなかったことも書いてある。つまずきを生かした授業をやっている。そういうところに視点をあてて取り組んで欲しい。

(5) 学校と家庭をつなぐオンラインの確立

金ヶ瀬中学校でオーストラリアとオンライン授業を行ったが、町内の家庭と学校のオンラインでの難しさがあった。昨年度の臨時休業はプリントと家庭訪問で対応したが、夏休みに入るので、持ち帰らせて繋いで欲しい。2学期はさらに繋がって欲しい。

3 生徒指導

(1) 「聞く力」（阿川 佐和子）

佐和子さんはインタビュー力、聞き出す能力がある。河合隼雄さんとのインタビューについて。相談にきた人には自分の意見を言わないようにしている。相手が言うことを引き出して相槌をうつ。教員もカウンセラーの1人。聞き方につながる。

(2) 不登校児童生徒の学習状況の把握と学習の評価の工夫

評価は認め励まして自立につながるように。不登校の子が頑張っていたら、主体性、人間性を評価すればよい。評価の三観点のひとつでも良いので認め励ますことが大切。

4 指導体制

○ 小学校の教科担任制（高階玲治）

国は令和4年度から小学校高学年の教科担任制を実施するといっている。現在も大規模小学校では、専科授業を進めている。文科省が計画している、外国語、理科、算数を専科授業にすると、週10時間空き時間ができる。その時間を学級の仕事ができるようになりありがたい。中学校の先生から見ると、小学校の先生は、空き時間がなくトイレに行く時間がない。専科になることによって専門性の確保や学級の時間をもつことによって、教員志望の減少を食い止める一つになるのではないか。

5 その他

- (1) 大河原中学校指導主事学校訪問の授業（5コマ）
- (2) 大河原小学校指導主事学校訪問の授業（4コマ）
- (3) 大河原南小学校第1回学校運営協議会
- (4) 町初任層研修会提供授業（道徳）
- (5) 大河原南小指導力向上研修会（算数）
- (6) 大河原小学校全国トップレベル成績の秘密は（news every）
- (7) 三地区陸上、中学校郡駅伝結果
- (8) 大河原南小学校「全学級道徳授業の日」

舟 山 委 員	以前は女性管理職は力んで仕事をやらなければなかった。
丹 羽 委 員	教師の宿命を痛いほど感じるとあるが、それぞれの立場を謙虚に素直に誠実にことにあたるのが大切と感じる。
一 盃 森 委 員	村木さんは、官僚のトップになっていろいろあって、今の言葉があるのか。自分は、最後に中学校に勤務することになったが、小学校と中学校の文化が全く違った。聞いて教えてもらいながら歩いて行くしかなかった。みんなで、相談しながら前に進んで。リーダーが目標を定めて。管理職の仕事は、組織が維持されて行かれるように後継者を育てていく。最終的なまとめとして大事。教育界はフラットな組織だったのに縦になった。齋藤喜博先生については、今読んでも古くない。若い先生方に読んで欲しい。
小 山 委 員	不登校児童生徒の評価はとても良いと思う。不登校生徒の親の会がないがどうなのか。成功事例を共有したりできるのではないか。小学校の教科担任制が早くできるとよい。
鈴 木 教 育 長	不登校の親の会は教育事務所で行っている。
一 盃 森 委 員	個別最適化とか、ケアハウスなど、教育を受ける機会ができていますが、以前の通信表はつらかった。ケアハウスについては県の支援が切れたら大変だが、町で続けていって欲しい。光が当たる機会が無くなる。佐和子さんについて。ゲストがいっぱいしゃべる人なら、黙って聞いている。あまりしゃべりたがらない人はいろいろ聞いて行く。賢い聞き方。

丹 羽 委 員

どうしたいのと思意を確認していく。
不登校の親の会。安心できる場があると良いのではないか。まとめるリーダーがいると良いのではないか。大河原町で先駆けてできないか。

(2)課長報告

教育総務課長

8月の行事予定について

生涯学習課長

昆虫展について

小 山 委 員

人数制限はしないのか。

佐 藤 課 長

人数については検討中である。

一 盃 森 委 員

動線はどうなるのか。

佐 藤 課 長

展示が空いているところ、空いているところを選んで見てもらう。

山家専門監

全国標準学力テストの結果について

各校で分析をしているので、12月に向けて行う。

舟 山 委 員

図書館の活動に力を入れてきた。本を借りることと読むことより、書くことに優れている原因はなにか。

山 家 専 門 監

書かせる場面を多く作っているのではないか。

鈴 木 教 育 長

12月にどれくらい伸びているのか。子供達の2極化が進んでいるので大変だと感じる。ベテランの先生の退職で若い先生層が多くなっている。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回は臨時教育委員会が令和3年8月20日（金）午後1時から開会を開催する。

11 閉会宣言 午後3時40分

令和3年8月20日

署名委員

署名委員